



平成 24 年 10 月 11 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ラ ン ド  
代 表 者 の 代 表 取 締 役 社 長 松 谷 昌 樹  
役 職 氏 名 (コード番号 8918 東証第一部)  
問 合 せ 先 常 務 取 締 役 管 理 部 長 佐 瀬 雅 昭  
電 話 番 号 0 4 5 - 3 4 5 - 7 7 7 8 (代 表)

特別損失の計上及び平成 25 年 2 月期第 2 四半期累計期間  
連結業績予想値と実績値の差異並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社の有する投資有価証券の評価に関して、保守的に見積もり、平成 25 年 2 月期第 2 四半期決算において、特別損失（投資有価証券評価損）を計上することといたしました。

これに伴い、平成 24 年 7 月 12 日公表の「平成 25 年 2 月期第 1 四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」において開示しておりました平成 25 年 2 月期第 2 四半期累計期間（平成 24 年 3 月 1 日～平成 24 年 8 月 31 日）の業績予想に関して、本日公表しました平成 25 年 2 月期第 2 四半期決算短信において、下記のとおり差異が生じておりますのでお知らせいたします。

また、平成 25 年 2 月期（平成 24 年 3 月 1 日～平成 25 年 2 月 28 日）の通期業績予想につきましても修正いたしましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 特別損失（投資有価証券評価損）の計上について

当社の保有する投資有価証券（不動産投資にかかる匿名組合に対する出資金）の評価に関して、当該匿名組合から決算書を入手し、同組合の所有する資産の譲渡に伴う損失を確認したため、監査法人と協議の上、当該投資有価証券の回収可能性を保守的に見積もった結果、平成 25 年 2 月期第 2 四半期決算において、約 782 百万円の特別損失（投資有価証券評価損）を計上することといたしました。

なお、第 2 四半期累計期間の売上高、営業利益、経常利益は、ともに想定を上回っているものの、当該特別損失を保守的に計上したことから、約 725 百万円の第 2 四半期純損失となりました。

しかしながら、第 2 四半期末までに約 33 億円の債務圧縮を実現しており、財務の健全化に向け、着実に前進しているものと認識しております。

2. 平成 25 年 2 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想値と実績値との差異

(平成 24 年 3 月 1 日～平成 24 年 8 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益 (※)
前回発表予想値 (A)	百万円 4,500	百万円 100	百万円 5	百万円 -	円 銭 -
今回発表実績値 (B)	4,757	170	54	△725	△2.38
増減額 (B - A)	257	70	49	-	-
増減率 (%)	5.7	70.0	980.0	-	-
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 24 年 2 月期第 2 四半期)	4,711	299	139	459	1.51

(※)「1 株当たり当期純利益」の算定上の基礎となる普通株式数については、平成 24 年 8 月末における発行済株式数（自己株式を除く）を使用しております。

3. 第 2 四半期累計期間連結業績予想値と実績値との差異の生じた理由について

当第 2 四半期累計期間の業績につきましては、シニア事業において、平成 23 年 8 月に実施した第三者割当増資により調達した資金を有効活用し、平成 24 年 6 月に新規開設したネクサスコート愛宕（仙台市）及びネクサスコート北大前（札幌市）の入居率が堅調に推移していることに加え、レジデンシャル事業においても、平成 24 年 5 月に実施した第三者割当増資により調達した資金を有効活用することで、共同事業等の事業スキームの組み立てが可能となったことや自社で取得した物件の引渡し完了したこと等から、売上高、営業利益、経常利益に関して公表しております業績予想値を超過することとなりました。

なお、前回公表数値を“未定”としておりました第 2 四半期純利益につきましては、上記理由により経常利益が当初の想定を上回ったことに加え、第 1 四半期において一部債権者との間で、債務の圧縮に関する協議が整ったことから減損損失約 493 百万円を計上したこと、及び、第 2 四半期において約 537 百万円の債務免除益を計上したこと、並びに、前述の当社の有する投資有価証券に関して、これを保守的に評価し約 782 百万円の特別損失（投資有価証券評価損）を計上したことなどから、結果として約 725 百万円の第 2 四半期純損失を計上することとなりました。

当社は、今期初から当第 2 四半期末までに約 33 億円の債務圧縮を実現し、これまでに、ピーク時から約 499 億円の債務を圧縮しております。今後も更なる債務圧縮の実現と当該損失の補填に向け、全社員一丸となって取り組んでまいり所存であります。

4. 平成 25 年 2 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 24 年 3 月 1 日～平成 25 年 2 月 28 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (※)
前回発表予想値 (A)	百万円 8,000	百万円 200	百万円 20	百万円 0	円 銭 0.00
今回修正予想値 (B)	8,000	200	20	-	-
増減額 (B - A)	0	0	0	-	-
増減率 (%)	0.0	0.0	0.0	-	-
(ご参考) 前期実績 (平成 24 年 2 月期)	8,681	457	160	△692	△2.27

(※)「1株当たり当期純利益」の算定上の基礎となる普通株式数については、平成 24 年 8 月末における発行済株式数（自己株式を除く）を使用しております。

5. 通期連結業績予想数値の修正の理由について

通期業績予想につきましては、第 2 四半期までの売上高、営業利益、経常利益が想定を上回っておりますが、下期の営業進捗に伴い、通期の業績が変動する可能性があるため、現時点では通期の売上高、営業利益、経常利益の見直しを実施せず、当初の予想を据え置かせて頂いております。

なお、当期純利益につきましては、前述の通り、投資有価証券の減損計上により、第 2 四半期において約 782 百万円の特別損失を計上しておりますが、今後の債務圧縮に関する協議の進捗状況により変動が生じる可能性があるため、一旦未定とさせていただき、今後の債務圧縮の進捗状況を踏まえ、判明次第すみやかに開示させていただきたく存じます。

以 上